

| 基本方針 | 施策 | 具体的な内容 | ゾーン | | | | | 想定している事業・スケジュール | | | | | | | | | |
|---|-----------------|--|-----|----|-----|----|-------------------|---|---|--|---|---------------------------|--------------------------------------|----------------------------|------------|--|--|
| | | | 山地 | 山麓 | 市街地 | 低地 | 各ゾーンをつなぐ 河川、緑地 | R6（2024年） | R7（2025年） | R8（2026年） | R9（2027年） | R10（2028年） | R11（2029年） | R12（2030年） | | | |
| 様々な立場の人々と連携・協働して生物多様性の保全を進める。 | 保全事業 | (1) レッドリスト及び指標種の定期的な見直しと掲載種の保全事業の検討、実施【新規】 | ○ | ◎ | △ | ◎ | ○ | 委員会立ち上げ、見直しに向けた基礎調査、情報収集体制の構築及び検討実施 | 検討の実施及び必要に応じて追加調査実施、保全を行う優先順位の検討と事業計画の作成事業の検討 | 改定札幌市版レッドリスト完成、発行、普及啓発、優先順位の高い種から種の保全事業実施 | 改定札幌市版レッドリストによる普及啓発及び種の保全事業実施 | | | | | | |
| | | (2) (仮称)自然共生サイトを活用した保全対象の拡大【新規】 | △ | ◎ | ○ | ◎ | △ | (仮称)自然共生サイト好適地選定調査 (選定方針、データ選定及びリスト作成、地図データ収集作成、 レッドリスト見直しに伴って収集した情報も活用) | (仮称)自然共生サイト候補地選定調査及びデータ作成等業務（土地所有者・市民団体の意向把握調査、保全効果の解析、自然共生サイト候補地の選定、リスト化、面積計算） | (仮称)自然共生サイト支援プログラム構築のための基礎調査業務（自然共生サイト候補地の聞き取り、現地調査、生物多様性の価値に関する基礎調査、支援メニュー及びインセンティブの検討） | (仮称)自然共生サイト支援プログラム運営業務（認定希望地に関する聞き取り及び現地調査、認定後のモニタリング調査等）年間5件程度の認定を進める。 | | | | | | |
| | | (3) 外来種対策【レベルアップ】 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | 優先対応種の検討 防除、調査の実施 外来種防除ボランティア制度の検討 | 優先対応種の確定、リーフレット等作成 外来種防除ボランティア制度要綱策定、募集、研修実施 | 優先対応種は改定札幌市版レッドリストに掲載 外来種防除ボランティア制度の運用 | | | | | | | |
| | | (4) 野生鳥獣とのあつき対策【レベルアップ】 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | エソシカGPS調査及び痕跡調査結果に基づく捕獲実施 エソシカ管理計画の検討 ヒグマ基本計画の運用 | 捕獲実施 エソシカ管理計画の策定 | 捕獲結果の検証、必要に応じた捕獲計画見直しのための調査実施 エソシカ管理計画の運用 | 捕獲計画改定、捕獲実施 ヒグマ基本計画改定 | 捕獲実施 ヒグマ基本計画の運用 | | | | | |
| | | (5) 防災、減災につながる自然機能の活用 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | 【既存施設の運用管理】 【雨水浸透花壇の拡充検討】 | | | | | | | | | |
| | | (6) 市民参加型指標種調査 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 前年の自然環境調査計画に基づき、調査内容の変更検討、調査実施 | 調査実施 | 指標種の変更に伴うさっぽろ生き物ミニ図鑑全面改訂および調査種選定の見直し 調査実施 | 調査実施及びこれまでの実施結果まとめ | 調査実施 | | | | | |
| | | (7) 自然環境調査 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 植物調査実施 | 哺乳類、爬虫・両生類、鳥類調査 | 魚類、底生生物調査 | 昆虫調査 | 4年間の調査結果まとめ、次の5年間の調査計画の策定 | 植物調査 | 哺乳類、爬虫・両生類、鳥類調査 | | | |
| | | (8) 協働型生き物調査 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 調査実施 | 調査実施 | 調査実施 | 調査実施 | 調査実施 | 調査実施 | 調査実施 | | | |
| | | (9) 動植物データベースの活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | データベース機器更新実施 データベース運用継続 | データベース運用継続 | データベース運用継続 | データベース運用継続 | データベース運用継続 | データベース運用継続 | データベース機器更新実施 データベース運用継続 | データベース運用継続 | | |
| 生物多様性への理解を深め、将来に伝えていく。 | 普及啓発事業 | (1) イベント等の活用 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 特別企画展の開催 他主催イベントへの出展等 | | | | | 特別企画展の開催及び次年度以降の財源確保 他主催イベントへの出展等 | | | | |
| | | (2) 学校教育との連携事業【レベルアップ】 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 学校向け教育プログラムの検討、試行、案内チラシの作成 | 学校向け教育プログラムの試行、改善、運用 | 学校向け教育プログラムの運用 | | | | | | | |
| | | (3) 環境教育の実施 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 各種観察会、外来種防除体験等の開催、出前講座の実施 | | | | | | | | | |
| | | (4) 各種普及啓発ツールの活用及び情報発信 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | Twitter、各種啓発用リーフレット、動画教材等による情報発信等の実施 | | | | | | | | | |
| 札幌市は消費都市であることを認識し、札幌市、市民、企業、活動団体等は連携協働して地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う。 | 生物多様性に配慮した取組の実践 | (1) 各主体による行動実践の促進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 生物多様性さっぽろ実践ハンドブックの更新及びデザイン作成 出前講座の実施 | 更新した生物多様性さっぽろ実践ハンドブックの印刷、配布 | | | | | | | | |
| | | (2) 生物多様性さっぽろ応援宣言企業、団体登録制度の強化【レベルアップ】 | △ | △ | ○ | △ | △ | 制度内容の見直し検討、必要に応じて要綱等改正 | 改正要綱に基づく事業の実施 | | | | | | | | |
| | | (3) 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる活動 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 連携事業の実施 | | | | | | | | | |

| No. | 施策をすすめるにあたっての基本方針 | 2050年目標 | 2030年目標案（進捗管理） | モニタリング方法 | 指標設定の理由 |
|-----|---|--|--|--|---|
| 1 | 様々な立場の人々と連携・協働して生物多様性の保全を進める。 | 生物多様性の保全に関する目標 多様な動植物が生息、生育する豊かな自然環境が適切な管理により保全されており、各ゾーンがあるべき姿を保っています。 また、野生鳥獣とのあつれきが減少し、外来種の生息が抑制されています。 | 2026年度を目標にレッドリスト掲載種に保全の優先順位を設定した札幌市版レッドリストを更新し、順位の高いものから保全実施計画を策定して保全活動を進めている。 | 保全実施計画の策定 策定した保全実施計画に基づき保全活動を進めている種の割合（%） | 絶滅危惧種のうち、取組が実施できる種を優先的に保全を実施していくため |
| 2 | | | 自然共生サイトの認定件数が20件に達している。 | 自然共生サイトの認定件数を確認 | 保護地域、認定地域は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として認定件数を確認可能であるため。 |
| 3 | | | 市内の生物多様性に寄与する場所を特定して、ゾーンごとにリスト化し、自然共生サイトを目標している土地が20件に達している。 | 自然共生サイトを目標している土地の件数を自然共生サイト支援プログラムにより確認 | 認定を目指す土地は生物多様性保全に寄与する面積であり、具体的な数値として自然共生サイト支援プログラム運営業務により確認可能であるため。 |
| 4 | | | 市内に定着している外来種のうち、優先的に防除を行うリストを作成し、種ごとの防除実施計画に基づいて対策を行っている。 | ・防除リストの作成 ・防除対象種毎に定めた目標（努力量に対する捕獲数または、単純な捕獲数）を達成しているかを確認 例）アライグマの捕獲数／延べわな数（CPUE） 参考、（令和3年度捕獲実績345頭） | 外来種調査及び防除活動の実施により、外来種による生態系への影響が低減されるため。 |
| 5 | | | ヒグマ基本計画に基づく取組の実施及び計画の定期的な見直しを行う。 | 現計画の計画期間である2028年3月までに必要な見直しを実施。 | ヒグマ対策を適切に実施することが野生鳥獣とのあつれきの減少につながる。 |
| 6 | | | エゾシカ管理計画を策定し、エゾシカの個体数管理を計画的に実施する。 | エゾシカによる被害防止のため、個体数管理に向けた計画を策定し、計画で設定した指標により個体数管理を実施。 例）交通事故件数、出没対応件数などの指標によりモニタリング（交通事故件数：令和3年116件、出没対応件数：令和3年度実績97件） | エゾシカ対策を効果的、かつ効率的に実施するためには計画に基づいた管理を実施する必要があるため。 |
| 7 | | | 札幌市内の環境を表す指標種すべての生息・生育が確認されている。 | 自然環境調査、市民参加型調査等により、全ての種が生息しているかどうかを確認。 | 環境を代表する種が確認されることで、札幌市の自然環境が劣化していないことが確認できるため。 |
| 8 | 生物多様性への理解を深め、将来に伝えていく。 | 生物多様性の理解に関する目標 生物多様性を理解している市民が増えています。 | 「生物多様性」の言葉の意味を知っている、または言葉は知っていたが意味までは知らなかったと回答した人のうち、小中学校または高等学校の授業で知った割合 ●%以上 | 市民アンケートにより確認（参考：令和2年度アンケート結果：全体として、小学校7.1%、中学校9.2%、高等学校8.1%、29歳以下では小学校21.9%、中学校36.2%、高等学校39.8%） | 生物多様性について、学校教育を通して知ったり、理解されているかどうかを直接確認するため。 |
| 9 | | | 市民参加事業（観察会、外来種駆除体験などの実施回数）●回以上 | 市民参加事業実施件数の確認 （参考：令和4年度実績、観察会2回、外来種駆除体験1回） | 生物多様性についての理解が進む事業の実施回数が増えると理解している人の増加につながるため。 |
| 10 | | | 学校教育と連携した取組みの実施（出前講座の実施件数）●回以上 | 学校教育と連携した取組みの実施回数の確認（出前講座の実施件数を含む） （参考：令和3年度実績22件） | 生物多様性についての理解が進む事業の実施回数が増えると理解している人の増加につながるため。 |
| 11 | | | Twitterによる情報発信件数50件／年度 | Twitterによる発信件数の確認。 （参考：令和3年度実績47件） | SNSを活用した情報発信により、一定数に対して札幌市内の生物多様性に関する取組を情報提供することが可能となる。 |
| 12 | 札幌市は消費都市であることを認識し、札幌市、市民、企業、活動団体等は積極的に地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う。 | 生物多様性に配慮した行動の実践に関する目標 生物多様性に配慮した行動をする市民、企業、活動団体が増えています。 | 生物多様性保全活動に参加したり、取り組んだりしている市民の割合●%以上 | 市民アンケートにより確認 （参考：令和2年度アンケート結果3.3%） | 市民が生物多様性保全に寄与する行動の実施が確認できるため。 |
| 13 | | | 市民参加型指標種調査参加人数●人以上 | 参加者数の確認 （データ送付があったチーム人数の合計、参考：令和4年度実績1,929名） | 市民参加の状況が数値として確認できる項目であるため。 |
| 14 | | | 生物多様性さっぽろ応援宣言登録を行っている企業、団体数合計●件以上 | 生物多様性さっぽろ応援宣言登録企業数 （参考：令和4年12月現在 企業138、団体25、合計163） | 企業、団体における生物多様性に寄与する行動を宣言し、実行につながる取組が確認できるため。 |
| 15 | | | 原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品、サービスの購入をしている企業の割合●%以上 | 企業アンケートにより確認（参考：令和2年度アンケート結果52.2%） | 企業における生物多様性に寄与する行動の実施が確認できるため。 |
| 16 | | | 生物多様性に配慮する取組に関する情報公開をしている企業の割合 ●%以上 | 企業アンケートにより確認（参考：令和3年度アンケート結果14.1%） | 公表により生物多様性に寄与する行動の実施が確認できるため。 |

…現行生物多様性さっぽろビジョンで進捗管理していた項目